

人と魚と海のネットワーク
香川県漁連ホームページ
http://seaclub.power.co.jp/
E-mail:gyoren@power.co.jp



JF 高松市北浜町 8 - 25
TEL 087-825-0350
J F 香川漁連 FAX 087-851-0699

第27回全国かん水養殖シンポジウム 宇和島市で2月23・24日開催

「国際化の中で生き残る魚類養殖をめざして～今こそ求められる組織の役割～」をメインテーマに、第27回全国かん水養殖シンポジウム(主催:(社)全国かん水養魚協会 岩切学会長)が2月23・24日の両日宇和島市の「南予文化会館」で、全国の魚類養殖漁業者約1000人が参加し、盛大に開催された。近年の消費者ニーズの多様化や外国産水産物との競合により一段と市況は低迷し、魚類養殖業の経営は危機的状況に直面している現状を如何に打開するか、メインテーマの下で、貿易商社代表の講演をはじめ、各分野の専門家と養殖業者の総合討論が行われた。

シンポジウムは23日午後1時30分に開会。岩切学会長の主催者挨拶の後、木下寛之水産庁長官の来賓挨拶、加戸守行愛媛県知事らの歓迎の挨拶があった。2時から基調講演として、富洋通商(株)磯由男代表取締役が「中国における養殖生産と我が国への輸出現状について」をテーマに講演した。



第27回全国かん水養殖シンポジウム開会式

午後3時10分からは「国際化の中で生き残る魚類養殖業をめざして～今こそ求められる組織の役割～」をメインテーマに濱田英嗣下関市立大学経済学部教授から、消費者の信頼を獲得するためには「品質保証プログラムの構築」が必要であり、そのためのキーワードは、高品質、安心、安全、栄養、美味しさ、消費者との交流である、この課題を全かん水としては如何に取り組むかとの問いかけがあ

った。田辺信介愛媛大学沿岸科学センター教授他3名のアドバイザー、岩切学会長、鶴岡一郎・嶋野勝路全かん水副会長の執行部リーダーを中心に参加者全員で生き残る養殖業をめざして、熱心な総合討論が行われた。

全かん水として、漁場環境の把握、国の定めた水産用医薬品使用基準の遵守、消費者が養殖魚に抱くイメージの把握(消費者と定期的な意見交換会の開催)、「養殖魚インフォメーションセンター」の積極的活用等により養殖魚のイメージアップを図り、消費拡大に努めるべきだとの提案を行った。会員からは、全かん水としての販売力の強化、魚価安定対策、養殖種苗導入の適正化等喫緊の課題への対応を求める意見が出され、執行部リーダー、アドバイザーから、持続的な養殖生産の維持、計画的な養殖生産、養殖共済への全加入による収穫高補償制度の確立、漁連間で連携を図り、販売力の強化に努める等を全かん水、漁連系統の組織を結集して取り組むこととするまとめがされ、最後に全かん水嶋野勝路副会長理事が決議文を読み上げ、総合討論を締めくくった。午後6時半からは3会場に分かれて懇親会を行い、なごやかな雰囲気の中で会員同志の親睦、交流を図った。24日は例年とは違う趣向で、宇和島名物の観光闘牛の見学をし、流れ解散で2日間のシンポジウムを終了した。



平成 13 年度「魚類養殖・種苗生産者意見交換会」開催

去る 2 月 8 日、(社)全国かん水養魚協会は、チサンホテル新大阪において、全国海産種苗生産協議会を開催し、マダイを中心とする人工種苗の計画的生産を続けるため、種苗の導入状況と生産状況について意見交換を行い、今後の対応を協議した。

意見交換会では、まず養殖業界から平成 13 年度に網入れした、マダイ、ヒラメ、トラフグ、シマアジ等の放養実績と養殖生産経営に直接影響する市況推移の報告、種苗生産業界から平成 13 年の月別種苗生産実績が報告された。

その後、双方の報告に基づいて意見交換が行われ、生産者からは「各県の漁場環境等に見合った養殖尾数を決め、やっていかないといけない。価格を見ればどこが適正生産量かは分かってきている。いつまでたっても同じ事を繰り返してはいけない。」「安定させるにはお互いの組織で協議し、お互いの組織が下におろしてやっていくという事が大事。今ある組織を使って指導するべきだ。」「ブリ類の価格暴落でマダイへのシフトが懸念されている。」「平成 14 年度のマダイ養殖目標を、次のシンポジウムで提起し、決議したい。生産量は前回同様 7 万トンの生産を強く主張したい。」などの意見が出された。

一方、種苗生産者からは「種苗生産協としては、目標値をこの会議で決め、近づける努力をし、黄信号を出すことは出来るが、第一原則として制限や割当という事は出来ない。」「過去の統計で、1000円/kgを維持するには生産量は約 7 万トンだと分かっている。協議会は、受注生産を行っているのかん水の方で養殖尾数を決めていただければ、種苗の生産尾数は決まってくる。」「現在加入している業者も脱会するという可能性もある。協議会は辞めても、生産する人がいるので、生産尾数を把握し辛くなってきている。かん水の方で協議会に入っているところから種苗を買っていただきたいという希望がある。」「両者手を取り合って養殖マダイという産業を育てなければならない。」などの意見が出された。

協議の結果

平成 10 年の暴落を繰り返さないためにも、需給バランスを考えた 7 万トンの生産維持を再確認すべき = シンポジウムで決議 =
マダイ種苗は周年生産が可能になっているが、種苗生産協議会会員は見込み生産でなく、あくまで受注生産を行っていく。

養殖業者・種苗生産業者一丸となって計画的な生産をめざす

計画生産を行うための課題に協議会の会員外による種苗生産がある。養殖業界として、種苗購入は協議会会員以外から購入しない方針を徹底する必要がある。と云うことで合意した。



全国海産種苗生産協議会

その後、同所で引き続いて輸入種苗についての初めての意見交換が種苗輸入業者 7 社の参加を得て開催された。会議は生産者側から窮状を訴えることで意見交換が始まり、輸入業者から養殖用種苗の輸入状況の報告があった。生産者からは、「漁協単位で打開に向けて動いている感はない。今は、何とか自分自身で生き残る術を考えている。」「現在マダイでは、種苗生産者協議会との協議ができ数値がきちんと把握出来るようになった。生産者の自主規制の為にも将来を見据えた議論が必要。」等の意見が出た。

輸入業者からは、「輸入量の増大は、輸入業者自らの首を絞める。」「日本の不景気がどれだけカンパチ相場に影響を与えているか分からないので、種苗輸入は 1500 万尾から 2000 万尾の巾でどれが適正か分からないが、1500 万尾体制を守りさえすれば、価格形成が出来ると思う。何らかの組織を作って考えないといけない。かん水ともコンタクトを密にしてやっていきたい。」等の意見が出た。



熱心に意見交換をする種苗輸入業者

今回は初めての意見交換会であり、この会議を今回だけで終わらせず、定期的に続けて安定した魚類

養殖につなげていきたいとの意見の一致があり、今後、定期的に意見交換会を開催することが決定された。

一日も早く、全かん水を中心に海産養殖種苗の適正放養尾数の合意ができ、養殖業界が一丸となって養殖漁家経営が安定することを祈念したい。

< 人工種苗についての意見交換会 >

出席者：(株)拓洋、近畿大学、(株)ヨンキウ、金子漁業(株)、和歌山県かん水、香川県かん水、愛媛県かん水、長崎県かん水、熊本県養殖漁協、大分県かん水、全国かん水

< 輸入種苗についての意見交換会 >

出席者：イヨスイ(株)、香川県漁連、(有)章雄物産、日本水産(株)、林兼産業(株)、(有)丸栄水産、(株)ヨンキウ、和歌山県かん水、香川県かん水、愛媛県かん水、長崎県かん水、熊本県養殖漁協、大分県かん水、全国かん水

一度に揚がるのは「一合ますに1、2杯くらいと少ない。昭和の始め頃迄は、河原に小屋建てし、旦那衆が芸者を呼んで、三味線、太鼓をならしてシロウオ料理を堪能する程の漁があったが、現在は漁獲量が格段に減少し、天気が良く、たくさん獲れた時点で1升ますに1杯程度だ。川が浅くなったことや汚れが影響しているのだろう。」と松本氏。

シロウオは卵とじ、天ぷら、吸い物種などにして賞味され、また生きたまま酢醤油や二杯酢につけて食べる<おどり食い>でもよく知られる。ゆでると<つ、く、し>の字形になるため筑紫地方では吸い物種に喜ばれる。

シロウオが大量に獲れていた時は、市場や割烹などに活かして直送していたが、現在は活魚水槽に蓄養しておき、県内や徳島県の料理店、釣具屋等の注文に応じて出荷している。

春を呼ぶシロウオ漁

白鳥町湊川河口でシロウオ漁が始まった。川尻に写真のように瀬張り網を仕掛け、朝・夕に袋網を取り揚げて、透明な小さなシロウオを獲る漁法で、早春の白鳥の風物詩である。



シロウオ漁の漁獲状況

シロウオは春、産卵のため小石の多い河口をさかのぼるハゼ科の魚で、体長3～4cmの細長い円筒状で、腹部の浮袋が透けて見える。

名前の似るシラウオ類と混同されがちだが、シロウオはサケ科シラウオ目、シロウオはスズキ目ハゼ亜目。生時の透明で細長い体つきは確かにシラウオに似るが、吻が短く丸いこと(シラウオ類では細く尖る)腹びれが胸びれのすぐ下にあること(シラウオ類では体の中央付近にある)などで、容易に区別できる。

シロウオ漁をしている東讃漁協組合長松本守氏は、2月15日から海水と淡水の混じり合う汽水域の川幅いっぱい約80mの瀬張り網を仕掛け、干潮を見計らって水揚げしている。

新しい組合長紹介

(敬称略)

大部漁協

新任 小 濱 孝 行 (平成14年2月12日付)
退任 宮 地 利 博



主な行事予定 (3/1～3/31)

- 3月 4日(月) 県漁業共済組合理事会
- 3月 6日(水) 香川県魚類適正養殖協議会調査委員会
第8回のり共販
- 3月12日(火) 県漁船保険組合臨時総代会
- 3月14日(木) 第9回のり共販
- 3月19日(火) (財)香川県水産振興基金理事会
香川県漁業担い手確保対策推進協議会
- 3月20日(水) 香川県漁業経営強化総合対策協議会
- 3月22日(金) 香川県魚類防疫会議
- 3月25日(月) 香川県栽培漁業推進協議会
- 3月27日(水) T A C & 漁船法説明会
- 3月28日(木) 香川県養殖業高度化推進協議会
養殖生産物品質安全普及検討会
県漁連理事会
- 3月30日(土) 第10回のり共販